びわ湖からの通信 No11 82・11・8

下水の道は黒かった

みんな！ 実は去る11月2～3日、大変なことがあったんだ！

あの南発一破壊の砦、滋賀県は安橋人工島で"下水道フェア"＝下水道万々歳まつりが開かれたのである。下水道とくに流域下水道のもつ様々な問題点、多くの地元民を人柱に強行建設された人工島の歴史、そういったことを一切押し隠し、*おおもんたれて住民の合意を得ようという腹が見え見えだから黙っていられない。早速僕たちは「反下水道フェア実行委」を結成し、ほとんど徹夜の準備で11月3日抗ぎ行動にむかった。一般学生2人を含む計6名の堅固な隊列だったといえよう。　＊大うそついて

下水道が公害を生む!?

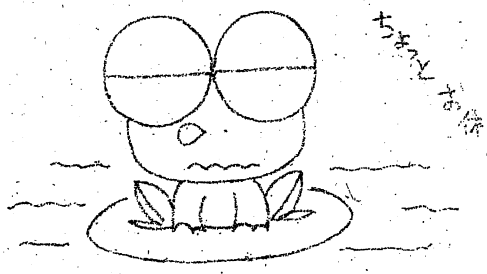
ここで流域下水道の問題点を整理してみよう。

まず第一に工場廃水を受け入れること。家庭廃水だけなら9割以上は処理できるというが、重金属や有害物質をたんまり含む工場廃水なんかを混ぜたりしたらもうだめ。有害物を食ってくれる微生物が弱るわ死ぬわで処理効率激減、そのまま放水＝タレ流しということになりかねない。

下水道は文明のバロメーター、汚ないものを何でも取ってくれる魔法の施設、という神話が世の中にある。大うそである。重金属や化学物質は処理できず、ほとんどそのまま流れてしまうし、処理したあと最後に残る汚泥には当然重金属が含まれるから農地にもどすことはできない。結局燃やしてどこかの埋め立てに使われて環境を汚染するわけだ。質量保存の法則どおり、汚ないものは決してなくなりはしない。

初めのことと関連してとってもこわいのは下水道が工場廃水のタレ流しを促進することだ。直接川などに排水する場合には工場も一応規制に従おうとするが(?)、下水道なら地下のパイプを通すからもうおかまいなし。実際そういう例はとある自治体で確認されている。また、下水道を工サに工場を誘地したという話も聞く。

人工島について触れておかねばなるまい。"矢橋の帰帆"と呼ばれた美しい風景を台なしにしといて、ずうずうしくも「矢橋帰帆島」を名のるこの島は、湖底を18ヘクタール（広島市民球場が20こぐらい入る）も埋め立てて造られた。計画当初から地元住民の強い反対があったが、県は金をばらまいたり（「反対運動の費を出してやる」…）おどしたりのアメとムチとコウソクで運動を分裂させ、「測量のため」と称して工事をムリヤリ始めたのである。途中「アセスメント」があるにはあったが、ここでも御用学者が大活躍！　たった8ヶ月で十分調査もなされないまま「悪いところもあるし、良いところもあるから知事さんにお任せ」という報告書がでておしまい…　工事はすぐに再開した。現在人工島の近くは水が停滞し、びわ湖で最も汚れた水域の一つとなっている。



反下水道フェア実行委はかく言った…

以上のような数々の問題点＝都合の悪いことには一切触れず、会場には「いい面」ばかりを強調する展示物やパネルがズラリと並んでいた。汚泥を使って陶器

びわ湖通信

ずできます、たい肥ができます、水がこんなにきれいになります…、そして純真無垢な小中学生を使った下水道推進ポスター。ひどいのは『湖南中部浄化センター』とかいう映画。軽快なリズムにのって工事が進んでいく。反対運動のハの字もでてこない。

これまでしてきた悪ごをおし隠し、わがんだ知識を住民にうえつけようというこの催し――犯罪的としかいいようがない。

僕たちは抗議行動を展開した。「ようこそ！反下水道フェアへ」とかいた横幕をかかげ、通行人にビラをまきながら、途中職員を論破しつつ、敷地内デモンストレーションを敢行した。最後玄関前に郷土力士蔵間関のサインを求めて並ぶ住民100名の前で、センター職員との公開討論会を行おうとしたが、「僕は責任もって発言できる立場にいないし…」とかいって若いおにいさんはコソコソと逃げていった。そのあわれな姿に絶望する住民の人たちに、僕たちは流域下水道の問題点等を切々と訴えた。その反響はすさまじく質問・意見が続出し、あわるに当たっては満場のまばらな拍手を受けたほどであった。

今回強く感じたのは、県民がいかに事実を知らされていないかということ、だから逆にこちらがきちんとした理論と豊富な事実をもって話していけば結構わかってくれるということだ。

既成事実の重みも吹き飛び、足どり軽やかな僕たちの姿を、びわ湖はたのもしそうに見まもるのでした。

――完――

亀びわ湖研がおくる

11月祭予告編

・スライド3本立上映
『江は泣いている』『矢橋闘争史（仮題）』
『こりゃ、大見を埋めるな！』
製作　B研スライド作製実行委員会

・びわ湖破壊修状報告

・京都の水はなぜ臭い？（展示）

・滋賀の珍味と酒

・各種パンフ販売

太郎君も花子さんもみんなA219へ集まれ～！

つづいて例会のお知らせ！

（毎週金ようち半（実は6じすぎ）理学部動物学教室4回生控室にて

楽しい中に何かがある、きびしい中に何かがある、超ド・シリアス集団びわ湖研に君も加わろうじゃないか。北は新潟から南は鹿児島まで、もちろん広島人もいる、島根だってまけてはいない、岡山人も何のその。さあびわ研に入ってインターナショナルになろう！

全学友はびわ湖研の会員となれ！